

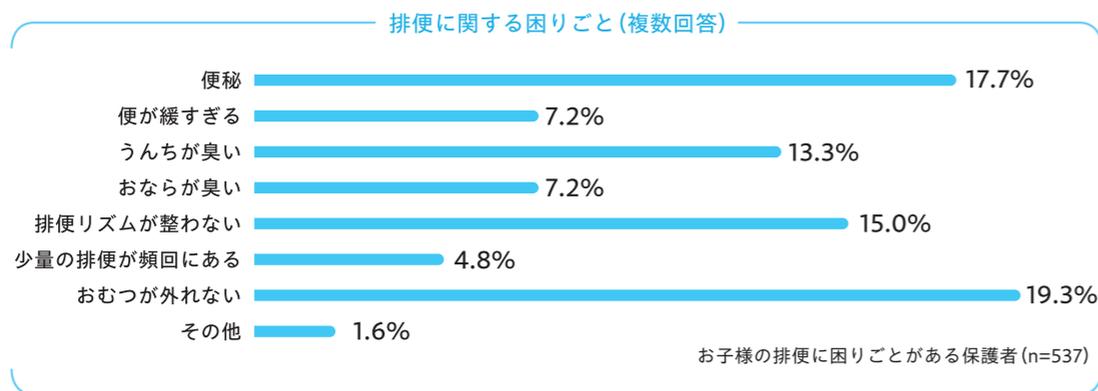
0～3歳児の排便、食事・栄養、睡眠に関する 困りごとに関する調査の結果

- 期間** 2022年3月1日～2022年3月4日
- 対象** 東京都在住の0～3歳児の保護者 1,000人
- 方法** インターネット調査
- 目的** お子様の排便を中心に、食事・栄養、睡眠に関して、どのようなことに困っているか、不安を感じているかを把握すること



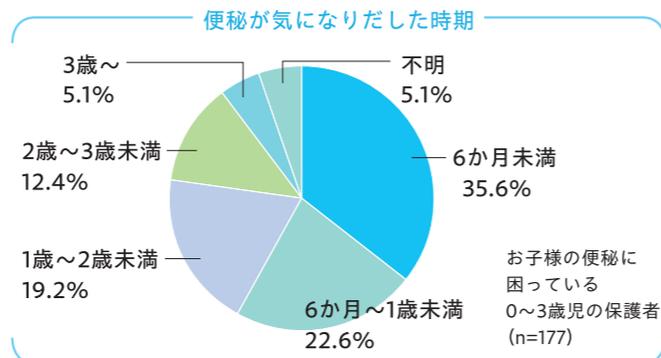
① 排便に関する困りごと

排便に関して、何かしら困りごとや悩みを抱えている人の割合は、53.7%と半数以上でした。「おむつが外れない」(19.3%)が最も多く、次に「便秘」(17.7%)、「排便リズムが整わない」(15.0%)という結果でした。年齢別にみると、0歳と1歳では「便秘」が最も多く、2歳と3歳では、「おむつが外れない」が最も多い結果となりました。



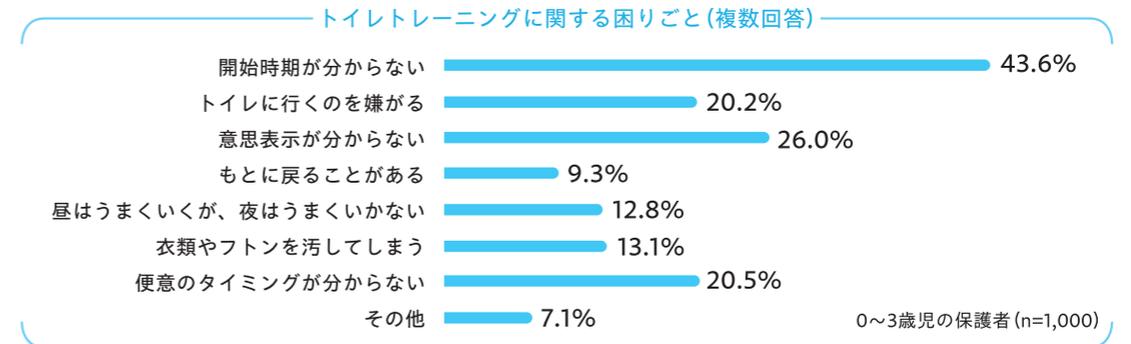
② 便秘が気になりだした時期

子どもの便秘が気になりだした時期は、1歳未満が58.2%でした。1歳未満の中でも、「0～1か月」が16.5%と最も多く、生まれて間もない新生児のうちから、便秘に対する注意が必要であることが分かりました。



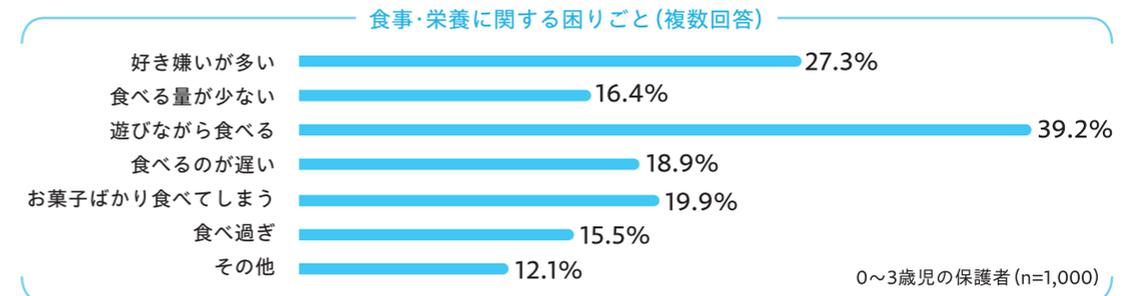
③ トイレトレーニングに関する困りごと

「開始時期が分からない」(43.6%)が最も多く、次に「意思表示が分からない」(26.0%)、「便意のタイミングが分からない」(20.5%)、と進め方に関する困りごとが多く挙がりました。



④ 食事・栄養に関する困りごと

「遊びながら食べる」(39.2%)が最も多く、次に「好き嫌が多い」(27.3%)、「お菓子ばかり食べてしまう」(19.9%)という結果でした。すべての年齢において、「遊びながら食べる」が最も多い結果となりましたが、2歳以降になると「好き嫌が多い」が30%以上になり、増加する傾向になりました。



⑤ 睡眠に関する困りごと

「夜間に頻繁に起きる」(26.9%)が最も多く、次に「寝つきが悪い」(26.0%)、「遅寝・遅起き」(22.2%)という結果でした。年齢別にみると、「熟睡しない」と「夜間に頻回に起きる」が年齢が上がるとともに減少傾向にありますが、一方で「遅寝・遅起き」は増加傾向にありました。

